

1. 始めの言葉	6、甚三郎の改心	11、「乙女峠」の由来安太郎の殉教
2、信徒発見	7、甚三郎の改心戻し	12、減食の責め苦・モリちゃん
3、キリシタンの再教育	8、徳川幕府から 明治政府 へ	13、祐次郎の迫害
4、自葬事件	9、153人 津和野へ流配	14、岩倉具視使節団
5、浦上4番崩れ	10、説得から拷問へ	15、浦上村帰郷に向けて
		16、おわりに

パワーポイント	語り手	2018・6・18
---------	-----	-----------

1. はじめのことば NO, 1

タイトル 1, 2 乙女峠祭 写真5枚 3, 4, 5, 6, 7	女語り	山陰の小京都とよばれる、津和野の街に行く、聖母マリアの行列です マリア像の後に続いて 全国から集まった信者たちが、 「あめのきさき」を歌い ロザリオを唱えながら、乙女峠を目指しています。 これから始まる朗読劇は 激動の幕末・明治維新という時代に、 カトリックの信仰を、命賭けで守り、非暴力で闘った、浦上キリシタンたちの 物語です。
--	-----	--

2、信徒発見 1865年3月17日「ワレラノムネ アナタノ ムネト オナジ」

大浦天主堂 8、9 (ワレ ラノムネ) 信徒発見の場 面の絵 10 隠れキリシタ ン 11	男語り	1865年 長崎に大浦天主堂が 献堂され、その1ヶ月後の3月17日の 昼下がり プチジャン神父に数名の 農民が近づき 「ワレラノムネ アナタノ ムネト オナジ」と告げました。 これが260年間、表向きは 仏教徒を装い たえず、死の恐怖にさらされながら、親から子へ、子から孫へと、 信仰を守り伝えた、浦上村、隠れキリシタンの神父との出会い「信徒発見」の 瞬間でした。
---	-----	--

3、プチジャン神父の、浦上キリシタンへ再教育

秘密礼拝堂 12、13	女語り	プチジャン神父の一番の仕事は、新たな 迫害が起きないように はやるキリシタンの心を、落ち着かせることでした。 (大浦天主堂には、役人が警戒の目を光らせていたので) キリシタン達には、しばらく、教会に来ないように告げ そのかわり、背が低く日本人に 変装しやすかったロカーニョ神父が、 日が暮れてから、4カ所の 秘密礼拝堂を、巡回することにしました。 キリシタン達は、宣教師から新たに教理を 学ぶにつれて、 今まで当然のように行っていた、聖徳寺の 檀家としての 務めを、 このまま、続けて良いものかどうか、悩むようになりました。
----------------	-----	--

<p>14</p> <hr/> <p>自葬とは</p> <p>15</p> <p>説明</p> <p>16, 17</p>	<p>男語り</p> <p>信徒</p>	<hr/> <h4>4、自葬によって、檀那寺と決別しキリシタンを表明する</h4> <hr/> <p>そして、とうとう、本原郷と、平野宿で、続いて、死者が出た時、 <small>だんなでら</small> 檀那寺（の聖徳寺）に 告げることなく、自分達でキリスト教の 葬式をして しまいました。 これを「自葬」と言います。</p> <p>自葬決行は、徳川幕府の「寺請け制度」をひっくり返す <small>ぼくだん</small> 爆弾宣言でした。 これを知った庄屋は、仰天し 自分の責任問題になることを恐れて 脅したり すかしたりして 説得しようとしてしました。</p> <p>しかし、浦上全村800戸のうち 700戸が、名簿と共に、 聖徳寺と縁を切る 口上書を 庄屋に差し出しました。</p> <p>「わたしたちは、昔から キリシタンの信仰を、守ってきた 家がありますので これからは 葬式など いっさい キリスト教によって行います。 さようご承知おきください」</p>
<p>18, 19</p> <hr/> <p>浦上 4 番崩れ の説明</p> <p>20, 21, 22</p>	<p>女語り</p>	<hr/> <h4>5、日本史上、最後の迫害となる「浦上 4 番崩れ」 勃発</h4> <hr/> <p>これが、日本キリスト教史上、最後の迫害といわれる「浦上 4 番崩れ」の 勃発です。</p> <p>「崩れ」とは、キリシタンの組織を 徹底的に破壊することです。 それまでの、1番 2番 3番の 浦上崩れの発覚は、密告によるものでした。</p> <p>しかし、今回の 4 番崩れは、キリシタン自らが 殉教を覚悟で、 自分たちの 隠れた信仰を、表に出したのです。 長崎奉行が捕縛に動いたのは ローマで、日本殉教者 205 人が、列福された 8 日後の、1867 年 7 月 15 日 真夜中のことです。</p> <p>どしゃぶりの雨の中、突然、4つの秘密礼拝堂が、襲われました。 この時、以前から 目を付けられていた 仙右衛門など 68人が、 桜町の牢屋に 放り込まれました。</p> <hr/> <h4>6、桜町牢屋での拷問・仙右衛門 ただ一人不改心</h4> <hr/>

<p>教会 23</p>	<p>男語り</p>	<p>長崎寄留地にすむ外国人は、自分達と同じ信仰を持つ 浦上農民が、キリスト教を信じる と言うだけで、逮捕されたことに 衝撃を受け、その日のうちに 奉行所に 抗議し、釈放を 求めました。</p>
	<p>外交団</p>	<p>「『信仰の自由』は 国法に優先する 自然的人権である。 キリシタン 弾圧は人道に 背くものだ。 この事件が、我々の本国に 報告されたならば、あなたがたが望んでいる。 対等な条約は結べないだろう。」</p>
<p>爪判をする 24</p> <p>仙右衛門 25</p>	<p>役人</p>	<p>「日本の法によって、昔から、キリスト教は 禁じられている。 我が国民を 罰するのに いちいち、外国領事に 相談する必要はない。 あなたがたの 言っていることは、内政干渉 というものだ。 釈放については、江戸からの 指示がなければ、我々が、勝手にすることは できない。 ただ、拷問にかけない ことだけは 約束する。」</p>
	<p>男語り</p>	<p>と、外国公使に 明言したにもかかわらず、実際には、ひどい 拷問をして 改心を迫っていたのです。 ここで言う「改心」は、キリスト教を棄てるという意味です。 甚三郎は『覚え書き』の中で、こう述べています。</p>
	<p>甚三郎</p>	<p>「 見せかけだけの改心は、する気がない と言いました 。 それを潮に ひどい拷問が 始まりました その責めは 体を 弓なりに縛り上げ 家の梁から 吊るされました 吊るすだけでなく 縄をグルグル巻いて “こま”のように 振り回されまし た。 目玉が飛びでたり 体の穴という穴の中のものが 飛び出します。 棒と鞭でたたかれ 水を掛けられると 縄はちぢみ 身の中に食い込み 皮膚は死人のようになります。 城越(じょのこし)村の元助ら6人が、「どどい」という 拷問を受け、半殺しの 状態で門口にころがされました。 役人が「あのおりに、体のが 痛まぬうちに、改心するが良い」と、言う と 殆どのものの心は弱り、改心証文に 爪判<small>つめはん</small>しました。 次に同じ、拷問を 受けることになっていた 私も、力を落とし、爪判を しまし た。」</p>
	<p>男語り</p>	<p>ただ一人 改心しないのは 当時 45 才の 仙右衛門だけでした。</p>
	<p>仙右衛門</p>	<p>改心しないのは、私一人だけになった時でした。 牢内頭は 諭すように言いました。</p>

<p>帰される 26</p>	<p>牢内頭</p> <p>仙右衛門</p> <p>牢内頭</p> <p>男語り</p>	<p>『その方は、妻を亡くし、子供ばかりが 家にいるそうだが、体を、痛めずに帰ったら子供も 助かるし、お上から 褒美 も出る。 今の 拷問 を 見たであろう。 全員、耐えきれずに 改心したのだから、その方 1人になったら、なおのこと、拷問に、耐えられない だろう。今、ここで、改心せよ。』</p> <p>「あなたが、今、言われたことは、よく分かります。 肉体だけの 問題で言うなら、それが、一番 良いことだと思います。 しかし、天主から 頂きました アニマと 天主の 御恩を 考えますと もうしわけありませんが 改心することは 出来ません。 わたしは、人は おそれません。天主だけを 畏れます。 私は、百人の 仲間がいるから 強気になり、1人になると 弱気になるような 人間では ありません。 信念は、けっして 変えません。」</p> <p>『それなら、もう 改心しろとは 申さん。 私も、元は、侍であれば、戦に出て、1人になっても、殿様に、忠義を尽くして 御奉公する 志と、その方が 天の^{あるじ}主に 御奉公する 志は、同じだ。 もう これからは、改心しろとは 言わん。』</p> <p>仙右衛門は、甚三郎達より、3日のちに、帰されました。</p>
<p>願い出 27</p> <p>幕府が倒れ 明治維新へ 28</p>	<p>女語り</p> <p>役人</p>	<p>7、徳川幕府崩壊の混乱期、甚三郎の改心戻し</p> <p>先に帰った甚三郎たちは、“テング”が 付いていると言われ、 家に入ってもらえず、昼も夜も 山の中で 三日三晩 泣いていました。 仙右衛門が、信仰を守り通して 帰って来たのを見ると いても立ってもいら れません。 仲間に呼びかけて、今度こそ 死ぬ覚悟で 庄屋に改心戻しを 願い出ました。 しかし、意外にも、代官所の役人は、 「いずれ 呼び出すから、それまで、家におれ。」 と 言い渡した だけでした。</p> <p>この年、江戸では、徳川幕府が 倒れ 長崎奉行の役人も、甚三郎たちに 構ってられない 事情があったのです。</p> <p>8、明治新政府のキリスト教偏見と キリシタン処分</p>

<p>キリシタン処分 29</p>	<p>男語り</p> <p>役人-1</p> <p>役人-2</p> <p>男語り</p> <p>役人-3</p> <p>男語り</p> <p>クザン神父</p> <p>役人</p>	<p>その年の暮れ (1867年12月9日)</p> <p>天皇を頂点に、神道国家を宣言する、明治 新政府が成立しました。次いで、浦上キリシタン処分について、御前会議が、開かれました。</p> <p>木戸孝允ら強硬派の意見は、こうでした。</p> <p>「浦上キリシタンは、島原の乱を 起こした子孫である。</p> <p>外国人に ^{そそのか} された この者たちを 放置しておけば、再び、九州争乱を 起こすに決まっている。」</p> <p>「天皇の 御先祖たる 大神宮を 拝まないキリシタンは、神道 国家 建設の、大きな害である。先ず主だった者の首を 切り、残りの者も 一拳に 根絶やしに するべきである。」</p> <p>それに対して 11 代津和野藩主で、神祇官を務める、亀井^{これみ}茲藍は、異議をとなえました。</p> <p>「いや、いや、そんな てあらなことはせず 宣教師から、キリシタンたちを離し、我国の 神道の ありがたさを 教えれば、無知で 愚かな 百姓ゆえ、そのうち、たやすく 改心するだろう。」</p> <p>こうして、御前会議において「処分はするが死刑にはしない」という、亀井の案が通り、浦上キリシタンの、中心人物 114 名に 出頭命令が 下りました。</p> <p>この第1次流配 のありさまを クザン神父は 日記にこう書いています。</p> <p>「『明朝 六つ刻に 御用!』という 長崎 府知事 からの命令が、114 名の 家々に 伝えられた。</p> <p>村人は 水杯をして 別れを 惜しんだ。</p> <p>家族も村人も 歩ける者は一緒について行った。</p> <p>もう 日が 暮れかかるころ 家族や村人は 監視の こん棒で 追い返された。やがて 役人が 判決文 を読み上げた。</p> <p>「その方どもは 異宗を 信仰いたし 天下のご法度を 破ったものであるにより 死罰に 処せられる べきであるが 無学の百姓ゆえ 高大なる <u>ご恩恵</u>により 他国に 預け置かれる。</p> <p>茂十を 頭として 66 人は 萩に 仙右衛門を 頭とする 28 人は津和野に 茂市を 頭とする 20 人は 福山に預け置く。 立てい! 」</p>
-------------------	---	---

縛られ連れていかれ 30	クザン 神父	前々から 覚悟していた ことであるから 驚く者は一人もない 村人たちは すぐに その場で 縄で縛られ 動物のように
	役人	「一匹! 二匹!」
船で流され 31	神父	と数えられながら 1,500 トンの 蒸気船に 積み 込まれた 私達は 彼らを見た。彼らもまた 私達を 見たはずである。 心と心は 通じ合った。
第一次流配 32		彼らは 最後の見納めとして 天主堂にそびえる 十字架を 眺めるのであ た 』
第二次流配 33	男語り	その1年半後、残りの浦上キリシタン 3,300 人にも、20 藩 22 か所への 第2次流配が 下されました。 浦上のキリシタン達は、「 <u>流配</u> 」のことを、「旅」と呼んでいます
グラフ地図 34		20 藩 22 か所の地図
----- -----	----- -----	9、浦上村総流配 津和野藩153人 を預かる
津和野へ 35, 36	女語り	合わせて153人の 浦上キリシタンを預かった 津和野藩は 4万3千石と言う 小藩でありながら 紙や蠟の産業で 潤って いたため 実際の財力は10万石を こえていたといわれます。
養老館 37		一方、人材の育成や 文化の発展にも努め 藩校の「養老館」からは 後世に名を遺す人物が 出ています。
		そして、津和野藩主の亀井 ^{これみ} 茲藍は、キリシタン処分の御前会議では、 強硬派の木戸孝允らに対して 「手荒なことはせずとも、神道のありがたさを 教えれば、たやすく 改心す るだろう。」 と異議を述べていました。 しかし、亀井たちの、この 自信 が、崩れたとき 焦りに変わり、かえって、 他の流配地に見られない、ひどい拷問を加える事となったのです。
----- -----	----- -----	10、説得から拷問へ改心方針がかわる

	男語り	当時 21 歳の甚三郎が、厳しい拷問にも屈しないで、役人と堂々と渡り合いました。
	甚三郎	そのうちに、夜明けとなり 太陽がのぼると、役人たちはいつものように、東に向かって 柏手を打って、一心に 拝んでみせました。
	役人	太陽が のぼった。そなたも、柏手を打って、日輪様 を拝め。
	甚三郎	拝ませぬ。
提灯を 38	役人	この、恩知らずめ！ 毎日、昼も夜も 太陽さまの おかげ。その太陽さまを 見ながら、おまえは、拝む 道 を 知らぬのか。そして、目に見えぬ デウスを一生懸命 おがむ。そんな、馬鹿な奴があるか。
	甚三郎	それなら、お役人様、私がおのわけを 申し上げます。お役人様が、何か 用があつて 外に 出られたとします。田舎道で、日が暮れ、真っ暗になってしまい、後にも先にも行かれぬ、いよいよ困っているところに、ある方が おいでになって、提灯に 灯をつけて『これを、持って 行きなされ』と 言って下さった。その提灯の お蔭で お役人様は、無事に 家に帰られた。
ホルバート 神父が建て た「マリアさ まと安太郎 の像」写真 39	役人	そのとき、お役人様は、どうなさいますか。すぐ、その提灯を 高い所に上げて、両手をつき平伏して、『お提灯様、本当に ありがとうございます。おろうそくさま、ありがとうございます。あなたさまのおかげで、命が 助かりました。この御恩は、一生忘れませぬ』と、仰せになって、提灯を お貸し下さった方は、今 見えぬ、どこにおるかわからん。そんな者に お礼を 言う必要はないと、仰せになるので ございますか。
	男語り	私達は、毎日、太陽の ありがたさは、知っております。けれども、その太陽に お礼を 言うことは ございません。その太陽を 造って、輝かして下さる、デウス様を、拝み、感謝して おります。」
	役人	「こやつは、百姓の ぶんざいで、つべこべ 理屈ばかり 抜かしよる。ああ、もうよい。元の 三尺牢に はいっておれ。」
	男語り	どんな手段を使つても屈しない者たちは、三尺牢にいれられました。

		<p>三尺牢とは、1辺が1m足らずの、狭い木造りの^{おり}檻で、 入れられたが最後、足を伸ばすことも、立つこともできず、 飢えと、寒さに 弱り果て、シラミや 自分の糞尿の上 うずくまるという、見るも哀れな状態になります。</p>
<p>文字説明 40、41</p>	<p>女語り</p>	<p>11、「乙女峠」の由来となった 安太郎の 三尺牢殉死</p>
<p>甚三郎写真 42、43</p>	<p>甚三郎</p>	<p>30歳の安太郎が 三尺牢に入れられました。 (「乙女峠の証し人」には30才となっている) 彼は、聖母マリアに対する 深い信心をもち、人の嫌う、便所掃除を 引き受け、 自分の食べる分まで 人に まわしていました。 「甚三郎覚え書き」にはこう、書かれています。</p>
<p>安太郎と聖 母 44</p>	<p>安太郎</p>	<p>「三尺牢屋の そばによりつき、『安太郎さん』、『安太郎さん』、と 声をかけまし た。 ところが、小さい声にて、返答をいたし、 それによって、わたくし もうすは、 あなたは この三尺牢屋 のうちにて さぞや、寂しゅうござりましょう、 と申しますれば、</p>
	<p>甚三郎</p>	<p>『 私は 10時、12時 までは、寂しゅうござりません。 12時より先に なりますれば、青い着物に 青いきれをかぶり、サンタ・マリア様 の ごえい(御絵)の顔立ちに、似ております その人が、物語をしてくれます。 ゆえに、少しも 寂しゅうはござりません。 けれども、このことは、私が生きて おるまでは、人に 話して 下さるな 』、</p> <p>それより 3日目に まことに、よろしき 死去で ござりました。 まことに よろしき 月夜でござりました。この人は、まことに、聖人と思いまし た。」</p>
		<p>12、お菓子より、パライソにいく事を 選んだ モリちゃん</p>
<p>説明 45</p>	<p>男語り</p>	<p>明治政府は、流配地 20藩22カ所に キリシタン待遇の「基準」を示して いました。</p>

<p>文字説明 46</p>		<p>パワーポイントで表示・・読まない</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>食べ物は、男女共、1日1人に付き、</p> <p>玄米5合、味噌^{もんめ}20匁、菜代20文に定め、朝、昼、晩3度にまかなう事。</p> <p>ただし、労働する者には、米、味噌を増加する。</p> </div>
<p>誘う役人 47</p> <p>応える モリちゃん 48</p> <p>モリちゃん 天国へ 49</p>	<p>男語り</p> <p>役人</p> <p>モリちゃん</p> <p>男語り</p>	<p>しかし、この基準は、他の藩と同様、実行されず、役人が 上米をはねるなど、実際は 程遠いものでした。</p> <p>時々、下肥をとりに来る 百姓が、子供が喜んで 遊ぶだろうと、ミーン、ミーン 鳴いている セミを投げ入れてやると、子供たちは、いきなりバリバリ 食べてしまったので、驚いたそうです。</p> <p>また、見物人が、大根の葉を 投げ入れると、それこそ、お菓子でももらったかのように、食べたといいます。</p> <p>こうした中で、役人たちは、5歳になるモリちゃんを 1人呼びだして 美味しそうな 菓子を 見せながら、誘いました。</p> <p>「 キリシタンを やめれば、この おかしをやるよ 」</p> <p>「 おかあがね、 『パライソへ 行けば、そげんな、お菓子よりも、もっと、もっと おいしいものがある 』 と、いいなさったから、キリシタンを やめません 。」</p> <p>モリちゃんは、けなげにも そう答えて、飢餓の 殉教を選んだのでした。 津和野で亡くなった、37人のうち、31人が栄養失調で亡くなっています。</p>
<p>50</p>		<p>13、甚三郎の弟 祐次郎の殉死・親子のスズメに 神の愛を知る</p> <hr/> <p>説得役は リーダー格の 仙右衛門と甚三郎さえ 改心させれば 他の者も 続くと考えました。</p>
<p>氷責め 51 三尺牢 52</p> <p>十字架に縛りつけられた祐次郎 53</p>	<p>女語り</p>	<p>しかし 二人は 厳しい氷責めにも 屈しません。</p> <p>そこで、弱々しい弟の祐次郎を、いためつけて、甚三郎を改心させてやろうと、残酷な 拷問を企てました。</p> <p>11月の末 日本海から吹いてくる風は 雪を含み 寒い日が続いていました。祐次郎は 丸裸にされ、丸太の十字架に 縛りつけられて、人の通る所におかれまして。 役人が、下品な言葉でからかったり、いたずらすると、内気な 祐次郎の目からは、涙がこぼれました。</p>

<p>縁側にて 54</p>		<p>さらに、でこぼこした 竹の縁側<small>えんがわ</small>に 座らせ 大黒柱に 縛り付け、朝から晩まで、 鞭でたたきました。</p> <p>兄の甚三郎は、祐次郎が拷問にかけられている間、風呂焚きをさせられました。</p> <p>ピュー、ピューと 鞭<small>むち</small>が、祐次郎の体に食いこむたびに、 「キャー、キャー」と、かん高い 悲鳴が 上がります。</p> <p>それでも、「キリシタンとして、どうか 耐えて欲しい！」 という気持ちは 変わりません。</p> <p>14日目になると 祐次郎は、危険な状態に なりました。 さすがに、役人も、うろたえて、姉のマツを呼び</p>
<p>介抱のよう す 55</p>	<p>役人 女語り 祐次郎</p>	<p>「弟は、病気になった。お前の 部屋で、介抱せよ」</p> <p>と、祐次郎を ひきわたしました。 薬や、包帯が あるわけでもなし、マツは、ただ 着物を着せて、冷え切った傷だらけの 祐次郎の体を 温めたり、さすったりするほか ありません。</p> <p>「姉さん、堪忍してくれのう。ほかの 衆にも、おわびしてくれのう。 ゼズスさまの ご難儀<small>なんぎ</small>を 思うて、口ば 結んでおるばってん、 あまり、痛かもんじゃけん つい、キイキイ わめいてしもうて、耳 障りじゃったろ。 おら、信仰が 弱かもんじゃけん、 八日目には、もう 体がもてん、 次の 裁判では、転びますと、無我夢中で 言うかもしれん、 祈りが 足らんけん じゃろと一心になって、 イエズス様、サンタ・マリアさま、ジョゼフさまに 最後の お助けを祈った。</p> <p>ふと、目を上げると、屋根の上に 子スズメ がおる。 そこへ、親スズメが 飛んできて、何か 子スズメに くわせ おった。 風が ひどく 吹くと、親すずめは、風上 のほうに止まり、体を 寄せてやる。 それを見て、気が付いた。</p> <p>スズメでさえ 親は、子を あげん かわいがり、守っておる。 のう姉、おら 天主様の子よ。 目には 見えんばってん、天主様が、おらば、可愛がって 守って下さる、と はっきり わかって きたとたい。</p>

<p>抜け穴から でてる 56</p>	<p>女語り 祐次郎 女語り</p>	<p>そしたら、にわかにかが落ちていてのう、覚悟が出来た。 それからは、今まで犯した、罪を痛悔し、臨終の祈りを、したとたい。 責め苦はひどうなつたばつてん、よほどしのぎやすくなつた。</p> <p>竹の縁がわは、ほんによか、黙想の場所じゃつたばい。」</p> <p>祐次郎の最期の時が来たと聞いて、抜け穴から甚三郎がきて 闇夜の中で 祐次郎の手を、握りました。</p> <p>「^{あんち}兄か？おら、もうじき 天主様に、召される ^{ごと}如ある。</p> <p>姉と兄は、生きながらえて、浦上に 帰れたら、 <u>一人は、教え方になつて 人々に 教え、</u> <u>一人は、結婚して、息子ば 神父様に してくれろ。</u> やっぱり、教理を、よう知つたらんと、信仰も 弱わかけん。 <u>子どもば、泣かせなさんな。子供に 罪はなか。」</u></p> <p>その後、浦上に帰つた、マツと、甚三郎は、祐次郎の 遺言を果しました。 マツは、孤児たちの世話をし、後に「お告げの MARIA 修道会」となる 「十字会」に入り、伝道活動をしました。 甚三郎は、出雲の松江に流されていた 平山タキ と 結婚し、長男の松三 郎を 司祭にしました。 「乙女峠」の著者である 永井隆に 洗礼を受けたのは、この 守山松三郎神父 でした。</p>
<p>文字説明 と使節団 57</p>	<p>男語り</p>	<p>14、岩倉使節団に「信教の自由を 認めない 日本は、野蛮国！」</p>
	<p>男語り</p>	<p>1873 年明治 6 年 2 月 24 日 キリシタン禁教の ^{こうさつ}高札が 取り外されました。 それには 次のような、いきさつがあつたのです。</p> <p>その 2 年ほど前、岩倉具視を 大使とする 総勢 107 人の 大使節団が 1 年 10 カ月という長い期間をかけて、欧米の先進 12 か国を 視察のために 廻つていました。 (1871・12・23~1873・9・13) しかし、一行は、行く先々で、冷ややかな 待遇を受ける事となつたのです。</p>

	<p>欧米諸国の人 3人</p> <p>男語り</p> <p>群衆</p> <p>男語り</p>	<p>「キリスト教迫害は、我々を侮辱するのと同じである。」</p> <p>「信教の自由を認めない日本は、野蛮国である」</p> <p>「キリスト教の弾圧は、アフリカの奴隷売買と並ぶ、人道問題である」</p> <p>特に、ベルギーのブラッセルでは、一行の乗った馬車に 市民たちが押し寄せ 非難の叫びが 止まりません。</p> <p>「信仰の自由を、認めよ！ 浦上のキリシタンを、牢から出せ！」 「信仰の自由を、認めよ！ 浦上のキリシタンを、牢から出せ！」</p> <p>使節団は、高が知れた「浦上」という村の名前を、 こんなに遠く離れた 異国の市民が 知っていて、しかも 深い同情を 寄せていることに、驚かされる ばかりでした。</p> <p>そして、日本が これから先 世界を相手に 対等に 話し合うためには 「キリシタン禁教」の問題を 根底から 考え直さなければならない、と、思い知らされたのです。</p> <p>かくて、岩倉は、ベルリンから、留守政府に 電報を打ちました。 (パワーポイント)</p>																		
<p>文字説明 58, 59</p>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>浦上キリシタンを、直ちに、釈放しなければ、使節団は 対等の外交を 行い得ない。</p> </div>																		
<p>高札 60</p>		<p>岩倉全権の要請に基づいて、 ついに、260年間、キリシタンを苦しめていた「高札」は、取り外され、浦上キリシタンの 釈放と帰郷が 許されました。</p> <p>短い者で4年、長い者で6年振りの ^{ふるさと} 故郷でした。</p> <p>それは、プチジャン司教が、日本に来て丁度10年目のことでした。 (司教はパリ外国宣教会本部に、電報をうちました。 「キリスト教禁制令 撤廃される 宣教師 15名至急入用！」)</p>																		
<p>表 61</p>		<p>15、浦上村帰郷 改心者は1872年、不改心者は1873年</p> <hr/> <p style="text-align: center;"><片岡 - 436 p の表> <片岡 - 475 p> <津和野 - 222 p></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>配流人数</th> <th>死亡者</th> <th>堅持者</th> <th>転宗者</th> <th>帰還者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>津和野組</td> <td>153人</td> <td>39人</td> <td>67人</td> <td>82人</td> <td>116人</td> </tr> <tr> <td>全配流者</td> <td>3414人</td> <td>662人</td> <td>1930人</td> <td>1022人</td> <td>1930人?</td> </tr> </tbody> </table>		配流人数	死亡者	堅持者	転宗者	帰還者	津和野組	153人	39人	67人	82人	116人	全配流者	3414人	662人	1930人	1022人	1930人?
	配流人数	死亡者	堅持者	転宗者	帰還者															
津和野組	153人	39人	67人	82人	116人															
全配流者	3414人	662人	1930人	1022人	1930人?															

<p>帰る人々 62</p>	<p>女語り</p> <p>平の友吉</p>	<p>いよいよ、津和野の改心者が先に帰ることになった時 平の友吉は、大浦天主堂の ロカーニュ 主任司祭宛の手紙を、託しました。</p> <p style="text-align: center;">平の友吉の手紙</p> <p>「お上のご命令により、改心者は郷里の長崎へ帰ることになりました。 彼らの中には、私どもに、一方ならぬ慈善を行ってくれた人がおります。 そのお蔭で私共は、ただ今、アニマも色身(しきしん)も壮健であるのです。 実際、私どもが飢え渴きに苦しんでおります時、かの人たちは、大いに同情を寄せて、 助けてくれたのでした。 どうぞ、彼らが参りましたならば、その告解を聞いてやって下さい。 彼らは、悔い改めて、再びキリシタンになりたいと望んでいます。 自分らは、どんなことがあっても、キリシタンをやめ得ない、と役人に申し出ました。 しかし、役人は、取り上げてくれなかったので、彼らは非常に悲しんだものであります。 私は、デウスの恩憐れみと、サンタ・マリアの御情けとを、彼らのために祈り、あわせて、 パーテル様におかせられても、彼らのためにオラシヨ(祈り)をなし下さんことを祈ります。 彼らは、パーテル様に御面会でき、コンビサン(告白)いたすことが出来ればと、 ただそればかりを望んでいるのであります。</p> <p style="text-align: center;">明治5年 平の友吉・・・読まない</p>
<hr/>	<p>女語り</p>	<p>先に帰る者たちは、自分達を 弁護するこの手紙に、どれだけ 心が救われ、再び、教会に戻る 勇気と希望を 得たことでしょう。</p> <hr/> <p style="text-align: center;">16、おわりに・殉教地とは、悲惨な、恐ろしい場所ではありません 神の愛が証された 勝利の場所です。</p> <hr/>
<p>ビリオン神父 63、64</p> <p>墓石名牌 65</p> <p>乙女峠 66</p>	<p>男語り</p>	<p>浦上キリシタン達がいなくなると、迫害を残す物は、すっかり取り払われました。 萩教会の 初代主任になった ビリオン神父様は、 <small>かぶさか</small> 蕪坂の千人塚に 殉教者の墓を建て、37人の名前を 刻みました。 さらに、津和野教会の 歴代神父様方によって、乙女峠一帯が、 <small>こんにち</small> 今日のような「聖地」として整えられました。</p>

<p>67</p> <p>信仰は、孤立した行為ではありません</p> <p>完 68, 69 写真 70 教区では～ 71 聖母像 72</p>	<p>流配地 22カ所で、奪われた命は 合わせて662人---- (20藩 22カ所の“旅”先)</p> <p>読み書きも ままならない 浦上農民の、血と涙の闘が、明治 22年 大日本帝国憲法 (28条) に「信教の自由」と「人間の平等」の文字を加えさせました。</p> <p>今年 2018年 は、高木仙右衛門たちが、津和野に到着して、150年の 記念の年にあたります。</p> <p>乙女峠の殉教者の 列福・列聖を祈るとともに、大きな驚きと 尊敬をこめて、この 朗読劇を終わらせて頂きます。ありがとうございました。</p> <p>パワーポイント (読まない)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>信仰は、孤立した 行為ではありません 信仰者は、信仰を 他の人から受け取りました。 それを他の人に、伝えなければなりません (カトリックカテキズムー166 より)</p> </div> <p style="text-align: center;">— 完 —</p> <p>所要時間 35分</p>
---	---